

平成29年度

いばらき輝く教師塾

茨城県教育研修センター

第5日 11月11日(土)

<講義>

学級で気になる子どもへの支援の実際

講義資料



茨城県教育研修センター特別支援教育課
指導主事 本城 知子

【要旨】

- ・学級で気になる子どもたちの行動には様々な背景がある。その中の一つに発達障害が考えられる。
- ・学級で気になる子どもへの教師の関わりとしては、その特性を理解し、学習や生活において、どんなことに困っているのか、その困り感に思いを馳せ、子ども一人一人に合った適切な支援を行うことが大切である。
- ・学級で気になる子どもの困り感を軽減させるには、環境を整えることが大切である。その子本人を変えるのではなく、教師の対応を変えたり、周りの子どもたちへ理解を促したりすることが困り感のある子どもにとって必要なことである。

<実践発表>

学級で気になる子どもへの支援の実際



県立友部特別支援学校
教諭 内田 幸枝

【要旨】

- ・子どもの行動問題は、その行動の背景や困難さを読み取り、子どもに合った適切な支援をすることにより改善される。
- ・子どもは、自分のよいところを見つけてくれる先生を信頼する。子どもの発言や行動に対しては、先生の捉え方や接し方によって、子どもを伸ばすことができる。
- ・学級で気になる子どもへの支援においては、本人や保護者の願いを尊重し、子どもが学習活動に参加している実感や達成感をもたせることが大切である。

＜ワークショップ⑤＞ 学級で気になる子どもへの支援の実際



塾生のアンケートより

- ・障害のある子どもにとって分かりやすい指導は、クラス全体にとっても分かりやすい指導であるということが重要な視点であると感じた。【学生】
- ・子ども一人一人に合った支援や配慮を考えて実践していくこと、それを実践する勇気をもつことが必要だと学んだ。【若手教員】
- ・障害のある子どもを「困った子」と決めつけるのではなく、その子どもの行動の背景を理解した上で、支援方法を考えていくことが大切であると感じた。【学生】
- ・障害のある子にとっては、先生も環境の一部であるということが心に残った。障害のある子にもない子にも分かりやすい授業ができるように頑張りたい。【若手教員】